

[学会]

第789回 千葉医学会

第9回 歯科口腔外科例会

日 時：昭和63年10月29日（土）午後1時

場 所：千葉大学医学部附属病院第2講堂

1. 骨肉腫 MSK 細胞株の subclonal line について

江上史倫, 金沢春幸, 吉田英彦
谷本良司, 馬橋敏紀, 宇野弘成
高橋喜久雄 (千大)

限界希釈法により, ラット骨肉腫細胞 MSK を cloning し, 9つの clone 株 4D, 4E, 4G, 6A, 8B, 8G, 8H, 10C, 10H の生物学的性状を比較した。細胞内 ALPase 活性は, 8B, 10H で高値を示し, Collagen 合成能は 8G が高かった。また, hPTH に対する反応性は, 特に 4E と 6A が強かった。戻し移植においては, clone 株中 8G の腫瘍性が最も高く, 再形成腫瘍中の類骨形成能が総ての clone 株に認められた。

2. 骨肉腫 MSK 細胞の骨代謝関連ホルモンに対する細胞内 cAMP, Alkaline Phosphatase: 膜燐酸化活性について

秋月一城, 成川芳明, 細野隆也
佐藤研一 (千大)
藤村真示 (同・1生化)

骨肉腫 MSK 細胞の PTH に対する細胞内 cAMP 量 ALPase 活性と Tyrosine Kinase との係わりについて調べた。細胞内 cAMP 量は PTH と Tyr. K. の特異的阻害剤 ST638 を共存させることにより PTH 単独添加による上昇のさらに約3倍に増加した。ALPase 活性は ST638 添加による変化は認められなかった。MSK 細胞の Tyr. K. 活性は細胞レベルでの処理, 膜画分レベルでの処理いずれの場合にも ST638 添加により抑制された。

3. ニワトリ筋腱接合部の免疫組織学的観察

熱田藤雄, 詹 前澤, 佐藤研一
(千大)

嶋田 裕 (同・1解剖)

ニワトリ胸筋の筋腱接合部を蛍光抗体法および免疫電

子顕微鏡法により観察した。vinculin および平滑筋型 α -actinin は筋腱接合部の筋細胞膜内側に存在し, また fibronectin は同部の外側に存在していた。さらに vinculin は細胞膜内側のZ線のレベルに一致して楔状にみえた。骨格筋型 α -actinin は筋原線維のZ線に特異的に結合し, また connectin は筋原線維の AI 移行部にみられた。今後筋腱接合部の形成に筋および細胞骨格蛋白質がどのようにかかわっているかを解明したい。

4 唾液分泌機構における micro filaments の役割について

奥村一彦, 秋山幸生, 山下徹郎
金澤正昭

(東日本学園大学・口外1)
菅波泰司, 吉川 保, 平 博彦
北村完二, 村瀬博文, 富田喜内
(同・口外2)

酵素処理により得られたラット耳下腺遊離腺房を用い, 開口分泌過程を rhodaminephalloidin 蛍光染色法, heavy meromyosin 修飾法, ならびに電子顕微鏡によって観察を行った。その結果, microfilaments (actin filaments) は, 分泌顆粒の細胞内輸送には関与していないことが明らかとなった。microfilaments の役割は, 分泌顆粒内容を腺腔に放出し開大した腺腔膜を収縮することにより, 分泌物を腺腔外へ押し出す作用に関与していることが示唆された。

5 静脈内鎮静法に用いたジアゼパムにより著明な呼吸抑制をきたした1例

菅野和彦, 高山泰男, 河野吉紀
金子 治, 京田直人, 見崎 徹
松江高光, 工藤逸郎

(日大・歯・口外1)

45歳, 女性の局所麻酔下での上顎洞根治手術において静脈内鎮静法用薬剤としてジアゼパム 5 mg を投与した